

IV 普及活動成果のPR実績

1 PR実績一覧

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
1	平成31年 4月13日	<p>「留萌地区酒米生産協議会 高品質米の生産目指す」</p> <p>留萌地区酒米生産協議会（工藤君男会長）の平成31年度第1回会合が、10日午後4時から増毛町のオーベルジュましけ2階暑寒の間で開かれ、高品質な増毛産酒造好適米の生産に向けて①1等米100%②整粒歩合80%以上③精米タンパク6.8%以下とする生産目標を提示。「窒素は控えめに施用」、「1日1回は水回り、生育・天候に応じた水管理」、「溝切り・心土破碎などを実施し、ほ場を乾燥させる」など、8項目のスローガンを掲げ、令和元年度（2019年度）の同協議会の活動計画や農業法人化の取り組みについてこれまでの経緯を説明した。</p>	日刊留萌新聞
2	令和元年 5月18日	<p>「地元就農や地域の活性化へスクラム 遠別農業高校教育推進連携協が設立」</p> <p>遠別農業高等学校農業教育推進連携協議会の設立総会が、16日午後6時から同校2階視聴覚室で開かれた。今年度事業計画を決めたほか、役員選任では会長に農業生産法人有限会社緑進代表取締役の小森嘉孝さんを選んだ。 今後、生徒と地域農業者の交流を通じて地域農業の担い手確保や地元就農者の増加、地域農業の活性化に取り組む。</p>	日刊留萌新聞
3	5月31日	<p>「苫前小、古丹別小5年生が田植え」</p> <p>苫前小、古丹別小五年生の稲作体験が30日、両校の学校田で行われ、田植えに頑張った。 水田ではかかとをあげて歩くなど、植え方のコツを教えてもらったあと、八人の五年生は協力機関の共済組合苫前支所、苫前土地改良区、農業改良普及センターの職員らが見守るなか、目印に沿いながら一株ずつ丁寧に植え込んだ。20年近くなる学社融合事業、児童数の減少等で三年前からそれぞれの学校にミニ水田を造成して稲作体験に取り組んでいる。</p>	羽幌タイムス
4	6月16日	<p>「児童が田植えに挑戦」</p> <p>留萌市食農教育推進協議会（佐藤剛信会長）主催の農村体験学習会が13日に開かれた。留萌市幌糠町の室田強志さんが所有する6.6アールの水田で午前と午後に分けて田植え体験学習が行われ、担任教諭に引率されて訪れた市内の4小学校児童合わせて120人が田植えに挑戦し、笑顔を広げた。同協議会や南るもい農業協同組合、ホクレン留萌支所、留萌振興局、留萌市などの関係者約40人が指導に加わり、「ななつぼし」の苗を植えた。</p>	日刊留萌新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
5	7月3日	<p>「スマート農業推進協議会を設置 省力化、生産性向上をめざし」</p> <p>労働者不足の解消、高品質生産を目指し、農業者と行政関係機関が一体となって取り組む、苫前町スマート農業推進協議会（会長、福士敦朗町長）が、このほど設立した。持続可能な営農体型を確立するための検討、ICT等の先端技術の活用などスマート農業の普及を進めていく。</p>	羽幌タイムス
6	7月6日	<p>「大豆、小豆の生育にムラ」</p> <p>留萌振興局が4日に発表した農作物生育状況調査によると、1日現在で気温が高く日照時間が長いことから、調査対象となっている作物全てで平年より生育が早く進んでいるが、大豆、小豆は小雨の影響で出芽などにムラが見られる。</p>	日刊留萌新聞
7	7月13日	<p>「普及活動 成果を報告」</p> <p>留萌振興局は7月上旬、留萌市の合同庁舎で「留萌振興局地域農業づくり懇談会」を開いた。流通、農産加工業、消費者代表、学識経験者、生産者、市町村、JAなどの農業団体から35人が参加した。同局は留萌農業改良普及センターの活動成果などを情報提供し、地域における安全・安心な農畜産物の生産や、農村地域の多面的機能、普及事業に対する理解と協力を求めた。</p>	日本農業新聞
8	8月9日	<p>「地域農業、農村のあり方 将来へ向けて意見を交換」</p> <p>留萌振興局主催の「地域農業・農村の将来方向に関する地域関係者との意見交換会」が、7日午後1時からJAオロロン地域産業振興センターで開かれ、管内の農業者や市町村職員らが今年度変更が見込まれる国の「食料・農業・農村基本計画」に向けた政策提案などについて意見を交わした。</p>	日刊留萌新聞
9	8月21日	<p>「アジアGAP取得」</p> <p>留萌管内遠別町の遠別農業高校は、アジア版農業生産工程管理（ASIAGAP）認証を取得した。食の安全・安心や事故防止に向けた必要な意識を、生徒に身に付けてもらうのが目的。今後は認証取得を生かして、2020年の東京五輪・パラリンピックの食材提供を目指して調査などを進める考えだ。</p>	日本農業新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
10	8月30日	<p>「酒造米めぐり情勢理解」</p> <p>留萌地区酒米生産協議会（工藤君男会長）の令和元年度第2回会合が28日、南るもい農業協同組合増毛支所会議室で開かれ、関係者が酒造好適米をめぐり情勢などに理解を深めたほか、低タンパク米生産の拡大に向けた取り組みについて協議した。同協議会は、高品質な酒造好適米の安定生産、安定供給を図ることで消費者のニーズを的確に捉え、北海道を代表する良質な酒造好適米産地を形成することを目的に、平成29年3月に設立。地域の酒米生産者、留萌振興局、増毛町役場、留萌農業改良普及センター、JA南るもい、ホクレン留萌支所、国稀酒造株式会社で構成している。</p>	羽幌タイムス
11	9月1日	<p>「青年農業者と農業高校生～地域農業の活性化策を探る」</p> <p>留萌管内4Hクラブ協議会（伊藤佳幸会長）、北海道遠別農業高校農業教育推進連絡協議会（小森嘉孝会長）共催の留萌管内青年農業者夏期交流研修会「地域農業活性化フォーラム」が、27日午前9時45分から、同校体育館で開かれ、参加者が取り組み紹介やグループワークを通して、より良い農業の在り方を探った。地域農業の発展を目的に留萌管内の農業高校生、青年農業者、農業関係者が一堂に会して留萌農業の課題解決に向け交流や対話を行おうと開催。同校2、3年生をはじめ、同4Hクラブ連絡協を構成する遠別町4Hクラブ、羽幌町ピンクファイブ、天塩町4Hクラブ、小平町4Hクラブのメンバー、初山別村や天塩町の青年農業者、留萌振興局や留萌農業改良普及センターの職員など約80人が参加した。</p>	日刊留萌新聞
12	9月4日	<p>「目視で品質チェック 稲刈りの開始日調査」</p> <p>南るもい農業協同組合水稻部会（木谷辰彦会長）主催の適期刈り取り現地指導が2、3の両日、小平を皮切り、増毛、留萌の管内南部3市町で行われ、水稻農家が持ち込んだサンプルで目安となる稲刈りの開始日を調査した。留萌市と小平町、増毛町合わせて約150戸の米販売生産農家を対象に、南るもい農業協同組合、南るもい農業協同組合、南地区留萌農業改良普及センター、ホクレン農業協同組合連合会留萌支所などの協力を得て毎年この時期に実施している。</p>	日刊留萌新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
13	9月22日	<p>「スマート農業が本格始動 自動操舵システムを実演」</p> <p>苫前町スマート農業推進協議会（会長・福士敦朗町長）主催のスマート農業デモンストレーションが20日、町九重地区のほ場で行われ、町内におけるスマート農業が本格始動した。スマート農業は、ICT（情報通信技術）やロボット技術を活用し、超省力化や高品質生産などを実現する新たな農業。担い手の高齢化や労働力不足といった農業課題の解決策の一つとして注目されている。</p>	羽幌タイムス
14	10月8日	<p>「酒造好適米を収穫 留萌地区酒米生産協 昨年に比べて品質良好」</p> <p>留萌地区酒米生産協議会（工藤君男会長）の今年の酒造好適米の稲刈り作業が9月27日、増毛町内の工藤会長のほ場で行われた。コンバインが日の光を浴びて金色に輝く酒米の稲を刈り取った。同協議会は、高品質な酒造好適米の安定生産、安定供給を図ることで消費者のニーズを的確に捉え、北海道を代表する良質な酒造好適米産地づくりを目的に、平成29年3月に設立。酒造好適米の生産者、留萌振興局、留萌農業改良普及センター、ホクレン留萌支所、増毛町役場、JA南るもい、国稀酒造株式会社で構成している。</p>	日刊留萌新聞
15	10月11日	<p>「オロロン地区農業担い手対策協議会 初山別の取組ベースに就農支援策 来年度から足並み揃えてスタート」</p> <p>オロロン地区農業担い手確保対策協議会（会長、長谷川裕昭組合長）が、このほどオロロン農協会議室で開かれ、新規就農支援案を了承したほか、Uターン、経営移譲支援対策も盛り込んでいくことを確認した。新規就農支援事業は、初山別村の取り組みがベースに支援する。また外からの受入れ対策だけでなく、Uターンや親から離れ新たに経営を目指す就農者、経営移譲の後継者にも別途に支援策を設けていくことを確認した。</p>	羽幌タイムス

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
16	10月20日 11月12日	<p>「新鮮野菜に主婦ら殺到 羽幌で農業ふれあい広場」</p> <p>留萌管内農村女性ネットワーク“オロロン”（北島亜寿香会長）主催の「第14回農業まるごとふれあい広場2019」がこのほど、町車輛総合車庫で開かれ、新鮮な野菜、果物や農産加工品などを買い求める主婦らでにぎわった。物産販売などを通して消費者との交流を図ろうと、毎年この時期に開催している。今年は管内各市町村から農業女性グループなど17グループが参加。新鮮、安価な野菜などが毎年人気で、今年もオープンと同時に主婦らが殺到。グループごとに設けられた各ブースとも好調な売れ行きを見せたほか、初参加となる遠別農業高校の生徒が企画した農業クイズも大いに盛り上がった。</p>	羽幌タイムス 日刊留萌新聞
17	11月22日 11月27日 11月27日	<p>「羽幌で新規就農者交流研修会」</p> <p>留萌振興局農務課、留萌農業改良普及センター主催の留萌管内新規就農者交流研修会が19日午前10時半から 町中央公民館で開かれ、新規就農者らが講演を通して少量多品目栽培の強みを学んだほか、管内の各地区で生産された食材を使った料理を囲んで交流した。学卒、Uターン、新規参入などの新規就農者、農業研修生や法人従業員が交流を通じて地域への定着、スキルアップを図ることを目的に開催。新規就農者や同課、同センター職員など約30人が参加した。</p>	日刊留萌新聞 北海道新聞 羽幌タイムス
18	11月29日 12月2日 12月3日	<p>「青年農業者が情報交換～ファーマーズトーク」</p> <p>留萌管内4Hクラブ連絡協議会（伊藤佳幸会長）、留萌振興局主催の令和元年度管内青年農業者会議「ファーマーズトークin RUMOI」が、27日午前10時半から町中央公民館で開かれ、取り組み発表や情報交換を通じて管内農業の可能性を探った。留萌農業の次代を担う若者が一堂に会し、日ごろの実践活動で身に付けた技術・経営改善の知識や農村生活・農村活性化などの情報交換を行うことで、将来の農業を担うたくましい経営者としての資質向上を図ることを目的に実施。同協議会を構成する羽幌町ピンクファイブや遠別町4Hクラブ、小平町4Hクラブのほか初山別村や天塩町の青年農業者など約40人が参加した。</p>	羽幌タイムス 日刊留萌新聞 北海道新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
19	12月2日	<p>「発想次第でチャンスに～ 農業体験受入で勉強会」</p> <p>留萌振興局、るもい指導農業士・農業士会主催の農業体験・研修生受け入れに係る勉強会が、28日午後1時からJAオロロン地域農業振興センターで開かれ、参加者が講演や意見交換を通して、教育旅行や農業体験の重要性に理解を深めた。地域農業の担い手対策の推進や教育旅行受け入れの機運醸成を図ろうと開催。管内8市町村から農業者ら約40人が参加した。</p>	日刊留萌新聞
20	令和2年 2月18日 2月19日	<p>「羽幌でスキルアップセミナー」</p> <p>留萌振興局など主催の「農業者・農業法人のためのスキルアップセミナー」が、14日午後1時半からJAオロロン地域農業振興センターで開かれ、参加者が講話を通して雇用環境整備や女性参加の必要性について学んだ。地域を支える農業者、農業法人、農業関係機関を対象に、人材の育成、確保、経営の安定化に役立ててもらおうと開催。管内の農事生産法人関係者や農業者、留萌農業改良普及センター職員ら約30人が参加した。</p>	日刊留萌新聞 羽幌タイムス

2 農業雑誌等への執筆・寄稿した内容

番号	年月日	農業雑誌名 農業技術書、新聞)	
1	令和元年 6月	「農家の友」 8月号	<p>「なでしこ農業塾でステップアップ ～農業経営のパートナーへ」 苫前町、羽幌町、初山別村、遠別 町の若手女性農業者を対象に平成18 年から開催。平成28年より経営のパ ートナーへのステップアップを意識 した活動へ転換してた「なでしこ農 業塾（14名）」の3年間の取組を紹 介した。</p> <p>本所 及川専普が執筆</p>
2	12月	「農家の友」 2月号	<p>「ファーマーストーク in RUMOI」に 集え～留萌管内4Hクラブ連絡協議 会再生への地固め 活動が停滞気味となっている4Hク ラブの中で、立て直しを図ってきた 留萌管内4Hクラブ連絡協議会の復 活のきっかけ、支援内容、これから の取り組みなどについて紹介した。</p> <p>本所 松田主査、大日方主査が執筆</p>
3	令和2年 1月	「農家の友」 3月号	<p>「留萌管内で冬期間の野菜栽培に チャレンジ！！」 水稻・畑作農家が農閑期の所得確 保として、冬野菜栽培に取り組んだ きっかけ、取り組み内容、成果と地 域の反響などを紹介した。</p> <p>本所 佐々木主任普及指導員が執筆</p>

3 地域農業技術支援会議の開催実績

開催日時	令和元年5月22日 令和元年12月24日 令和2年年1月31日	会 場	普及センター南留萌支所 普及センター南留萌支所 普及センター南留萌支所
会議の名称	地域農業技術支援会議（事務局会議）		
参集範囲	留萌振興局産業振興部農務課、上川農業試験場研究部地域技術G 上川農業試験場技術普及室、留萌農業改良普及センター		
概 要	(1) 各種会議の年間スケジュールについて (2) 令和2年度課題選定に向けた活動について (3) 令和元年度要望課題の対応について		

開催日時	令和2年2月17日	会 場	留萌振興局
会議の名称	地域農業技術支援会議（4者会議）		
参集範囲	留萌振興局産業振興部長、上川農業試験場場長、上川農業試験場研究部長 上川農業試験場技術普及室上席普及指導員、留萌農業改良普及センター所長		
概 要	(1) 令和2年度地域要望課題の対応決定について (2) 令和元年度留萌地域農業技術支援会議地域関係者会議の開催について		

開催日時	令和2年3月16日予定	会 場	J Aオロロン会議室
会議の名称	地域農業技術支援会議地域関係者会議		
参集範囲	増毛町、小平町、羽幌町、初山別村、JAオロロン、JA苫前町、NOSA1道央留萌支所、ホクレン留萌支所、管内指導農業士、管内農業士 留萌振興局産業振興部長、上川農業試験場場長、上川農業試験場研究部長 上川農業試験場技術普及室上席普及指導員、留萌農業改良普及センター所長 留萌振興局産業振興部農務課、上川農業試験場地域技術G、上川農業試験場技術普及室、上川農業試験場天北支場技術普及室、 留萌農業改良普及センター		
概 要	新型コロナウイルス発生にかんがみ、中止。		

4 農業改良普及推進協議会等の開催実績

(1) 広 域

開催日時	令和2年7月3日	会 場	留萌振興局 講堂
会議の名称	令和元年度留萌振興局地域農業づくり懇談会		
参集範囲	留萌消費者協会、中小企業家同友会道北あさひかわ支部留萌地区、るもい指導農業士・農業士会、JA南るもい青年部、JA南るもい女性部、上川農業試験場研究部、留萌市、増毛町、小平町、JA南るもい、北海道中央農業共済組合、ホクレン留萌支所、上川農業試験場技術普及室、留萌振興局農務課、留萌農業改良普及センター 合計34名		
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 農業改良普及センターの取り組み紹介 2 令和2年度普及活動報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域活性化のための組織育成による地域営農の確立 (2) 地域農業・農村を支える多様な担い手の育成 3 地域との連携活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新たなる挑戦！田畑輪換による輪作体系の確立 4 試食および意見交換 		

(2) 本 所

開催日時	平成31年4月25日	会 場	J Aオロロン会議室
会議の名称	オロロン地区農業担い手確保対策協議会 第1回幹事会		
参集範囲	羽幌町農林水産課長、羽幌町農業委員会事務局長、初山別村経済課長、初山別村農業委員会、遠別町経済課長、遠別土地改良区事務局長、北海道遠別農業高等学校教諭、JAオロロン、常務、農業振興部長、JAオロロン初山別支所長、JAオロロン営農課長、北海道中央農業共済組合留萌支所長、ホクレン留萌支所営農支援室、留萌振興局産業振興部主幹、留萌農業改良普及センター地域係長・担い手主査 合計15人出席		
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規就農者支援事業(案)について 2 新規就農に係る情報交換について 		

開催日時	令和元年9月30日	会 場	J Aオロロン会議室
会議の名称	オロロン地区農業担い手確保対策協議会		
参集範囲	羽幌町長、羽幌町農林水産課長、初山別村長、初山別村経済課長、遠別町長、遠別町経済課長、北海道遠別農業高等学校教諭、JAオロロン組合長、JAオロロン常務、J Aオロロン農業振興部長、JAオロロン遠別・初山別支所長、JAオロロン営農課長、留萌振興局産業担当部長、留萌振興局農務課長、留萌農業改良普及センター所長、次長 合計18人出席		
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規就農者支援事業(案)について 2 今後の取り組みについて 		

開催日時	令和2年2月18日	会 場	J Aオロロン会議室
会議の名称	オロロン地区農業担い手確保対策協議会 第2回幹事会		
参集範囲	羽幌町農林水産課長、羽幌町農業委員会事務局長、初山別村経済課長、初山別村農業委員会、遠別町経済課長、遠別土地改良区事務局長、北海道遠別農業高等学校教諭、JAオロロン、常務、農業振興部長、JAオロロン初山別支所長、JAオロロン営農課長、北海道中央農業共済組合留萌支所長、ホクレン留萌支所営農支援室、留萌農業改良普及センター地域係長・担い手主査 合計19人出席		
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規就農者支援事業における負担割合について 2 就農祝い金の交付基準について 		

(3) 南留萌支所

開催日時	平成30年7月2日	会 場	妹背牛町、東川町
会議の名称	南留萌地区農業振興協議会現地研修会及び意見交換会		
参集範囲	指導農業士農業士会南ブロック、小平町、留萌市、増毛町、JA南るもい、ホクレン留萌支所、留萌地区農業共済組合南部支所、留萌振興局、留萌農業改良普及センター南留萌支所		
概 要	1 視察研修先 (1) 妹背牛町 乾田直播栽培農家 田村 裕良 氏 (2) 東川町 指導農業士 松家 源一 氏 2 視察結果をふまえた意見交換会		

令和2年3月

留萌農業改良普及センター 本所

(郵便番号) 078-4106
(住所) 苫前郡羽幌町南6条2丁目16番地4
(電話番号) 0164-62-1779
(ファクシミリ番号) 0164-62-2474
(Eメール・アドレス) rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

留萌農業改良普及センター 南留萌支所

(郵便番号) 077-8585
(住所) 留萌市住之江町2丁目1番地 留萌合同庁舎
(電話番号) 0164-42-8493
(ファクシミリ番号) 0164-42-4079
(Eメール・アドレス) rumoi.minaminoukai1@pref.hokkaido.lg.jp